

COFFEE BREAK

■妖怪ウォッチ

中部ブロック／キタロウ

最近、うちの子供たちが「妖怪ウォッチ」にハマっています。新聞等によるとポケモン以来のヒット作らしい。

確かに出てくるキャラクターは、かわいいし名前が面白い。地縛霊になった猫のジバニャンや、何をお願いしてもムリと拒否してくるカベ妖怪のムリカベなど、覚えやすくアイデア豊富なキャラクターが楽しい。そのアニメで使われている妖怪メダルのおもちゃは、一袋二枚入りで200円弱だと思いましたが、大人気で売り切れ中。だから入荷しても、お1人様1セット限りなので、買うときは親の私たちも並んで買いお手伝いです。まるでバーゲンセールみたい。3DSのゲームもあり、まだまだ人気は続きそうです。

少し前まではイナズマイレブンというサッカーアニメばかりだったのに、ようやく親の私達が覚えたころには次のアニメである。まあ自分たちも子供の

頃はそうだったので、気持ちはわかりますが(笑)

いつの時代でもアニメは大人や子供に人気ですが、どこでどうやってヒットするかはわかりません。だから想像力や表現力などができる漫画家の発想はすごいと思います。私達の建築と同じように、ないものから形にして残ることができる職業だと思います。売れるまでとても大変ですが、やりがいがあり夢のある職業と思うのは私だけでしょうか？

建築も今はいろんなことで対応が大変ですが、夢のある職業なので、良い建築ができるようにアイデアを出して頑張りたいですね！

あっ、そうそう妖怪ウォッチの歌で「ようかい体操第一」も楽しいですよ！ラッキィ池田さんが振付しているので、歌詞も振付も面白いので皆さんも見てください。

そおれ！ようかい♪ようかい♪ようかーい♪ウォッチッチ!!

■スピード

西部ブロック／日曜育児

仕事で西へ東へ……。移動は効率的に車は勿論、新幹線から飛行機まで駆使し毎日を過ごしています。何やら慌ただしい毎日ですが唯一の楽しみが休日の子供との時間。せめて家で子供と向き合う時は効率を求めない移動や考え方を大切にしています。移動手段はもっぱら自転車が多いのですが、これがすごくいい！5歳になる長男を乗せて走るのですが前日には子供とサイクリングの計画を立て就寝。そして休日の早朝よりサイクリングスタート！車とは違う速度でゆっくりのんびり移動します。計画通りにいかなくてもお構いなしで沢山の寄り道を会話しながら決めてきます。花を見つけ観察、虫を捕まえ誇らしげに見せる、幼稚園での生活や感じたこと。嬉しかったことや悲しかったこと…。本当に色々と感じ考えながら成長しているのが分かります。車ではないスピード、自由度に会話も弾みます。

子供と一緒にいると「なぜ？なんで？どうして？」の質問が多く答えが難しい質問も多くありますが少

なくとも「お父さんの仕事」の質問にはしっかりと、どんなことをして誰の役に立って喜んでもらってるかを答えたいな。余力を残すことなく毎日を全力疾走で生きている子供を見て今の自分は毎日を精一杯生きているのかとマジメに自問自答するときも？！子供の様な集中力と好奇心、発想力や素直さをもって毎日を過ごせたらもっと素晴らしい仕事で沢山のお客様を満足してもらえかもと子供に教えてもらってます。小さな先生これからも宜しく！ゆっくりのんびり自分のペースで成長してくださいね。



無礼句

■10年後の建築士会

中部ブロック／中部ブロックの一会員

6月11日通常総会が開催された。

事前に提出された委任状の数が過半数を超えていたため、全ての議案が総会開催前に事実上可決されるという出来レースの様相は否めない。毎回の事なのだが…

理事選任議案も圧倒的多数で可決され、会長、副会長、常務理事、理事計16名が決まり建築士会は新体制でのスタートを切った。

個人的に、要職は長く務めない方が良いと思っているので、なるべく新しい方に多くの理事を担当してほしいのだが、理事を推薦したのが各ブロックとの事。1300名余の会員総意での選出と理解し、新体制に期待したい。

特に、歯止めがかからない会員減少問題については、新会長がリーダーシップを発揮し、理事が一丸となって危機感を持って取り組んでいただきたい。とにかく、今までの事は一度リセットし、ゼロからのスタートを期待したい。今までのやり方ではダメだったのだから

…10年後の建築士会がどうあるべきかを考えて…



■「高知家」

東部ブロック／仕事おやじ

昨日は紀伊半島の南端の町に打ち合わせに行ってきた。新富士から新幹線に乗り名古屋で乗り換えて特急で3時間ほど掛かったのだろうか、日帰りなので最終便で戻ってくるという日程だ。

遠くに出掛けて仕事をするのは遠足の小学生のようにうきうきとする。

当然、仕事なので毎日が遠足気分とはいかないが、空港に行くことも、レンタカーで移動することも、その地で暮らす人達のことば使いなども含めて環境が変わるといのは自分の体内が刺激されてそれまでは無かったエネルギーが補充される気がする。

1月から3月は高知県の小さな港町に週に一度に出掛けていた。着工が一月で竣工が年度末。3月31日に完了検査合格という緊張した3ヶ月だった。打ち合わせはその一年ほど前から始まっていたのでかれこれ1年通うことになった。するとだんだん高知に愛着を感じてくる。全くの私見であるが、高知の人たちはみなやさしい。法務局がわからない時は役所の人が車で先導してくれたし、法務局の担当者もこちらの不安な顔を感じとってくれて、手取り足取り対応してくれた。

空港のレンタカーの受付のお姉さん達は週に一度見かけるこのおじさんに家でも受けたこともないやさしい声をかけてくれたし、とにかく嫌な人が少ないのである。

高知龍馬空港を降りると「高知家にようこそ」とあの広末涼子にっこりとほほ笑みかけているのだが、思うにこうして県全体を家族であるとしてアピールしているところは少ないのではないだろうか？特産物や名勝を表に出すことがふつうであろう。だが、少なからず通いつけているとそのことがなるほど思えてきた。

役所の担当者にあるときこんなことを質問してみた。「高知の人はみなやさしいと思うけど、どうですか？」

答えは、「やさしいかどうかはわからないけど、相手のことを自分に置き換えて考えることはよくあります」と。

日本の歴史もここ高知から多くの偉人たちが生まれている。

きっと先人たちは自分のことを未来の日本に置き換えて思いを馳せていたのであろう。



(高知県庁入口)